

新シリーズスタートにあたって

平成 23 年 5 月 25 日

今年のハイライフデータファイルのテーマは、社会データ(数字)の変化を見つけ、現在の都市生活の実際を描くことです。

昭和から平成へと元号が変わった転換期に、日本はバブル経済とその終焉を経験したわけですが、かれこれ四半世紀にわたり、デフレ経済と戦い続け、日本の社会は上手く激動を吸収し再び安定的な社会を構築してきました。しかし、目に見えない物事が着々と進行していました。それは日本社会が本格的な高齢化と少子化社会へと突き進んでいるということです。

現在の日本は、少子高齢化、経済格差の拡大、自治体破産、企業倫理の崩壊、自然災害の恐怖、犯罪の多発……など様々な問題を抱えています。景気回復はいつ来るのか、雇用者の給料は上がるのか、消費は衰微するのか、老後資金を年金だけに頼れるのか、結婚すべきなのか、子供を産むのか産まないのか、子育てをどうすればよいのかなど暗く模索しています。

平成になって四半世紀を経たが、最近の経済・景気関連データ、人口などの社会データを見ると、上述の諸問題が顕在化するデータが飛び交っています。戦後の統計開始以来の最高・最低のデータが新聞や雑誌に度々載るようになりました。

本年は、人口構造的に高齢少子社会を生み出した団塊世代のほとんどが高齢者入りする前夜となり、社会の基本構造の変化の兆しを見せる史上最低・最高といった社会データが飛び出してくるに違いありません。本シリーズは、そのようなデータを見つけ出し、現在の都市生活を描くことにします。

新シリーズ第一回は、児童虐待に注目しました。30年連続して子どもの人口が減少する中で、子どもはほしいものあるいは国家の宝と重視されていますが、一方では幼児児童虐待が激増しています。少子化とデータとしてはあまり目に触れない幼児・児童虐待の実際を見ました。虐待は幼児・児童から老人(高齢社会)まで広がっており、今回の東日本大地震や福島原発事故では多くの子どもが死亡、行方不明、学童疎開を強いられています。これも一種の社会の虐待なのではないでしょうか。

(マーケット・プレイス・オフィス代表 立澤芳男)

▼新しい日本社会をイメージする(新・シリーズテーマ案)

	テーマ(案)	関連データ	アプローチ課題
1	「子どもは国家の宝もの？」	史上最低が続く子供の数 国家の宝物	児童虐待
2	「新階層化社会」ニッポン	史上最低水準が続く勤労者家計 22年 現金給与0.5%増で回復したが	収入・支出、ローン、借金、給与格差、世帯スタイル別の家計支出額
3	「労働貧国」ニッポン	最大の大学生数と最悪の就職内定率、ニート、フリーター	就活、企業の正・不正規社員状況 海外労働
4	「老人大国」ニッポン	高齢者人口3000万人の時代。700万人の「団塊世代高齢者」	生活保護、犯罪、介護・医療、虐待高齢者、高齢就業、退職者向け市場
5	「ネット大国」ニッポン	ネットショッピング5兆円時代。百貨店5兆円。コンビニ7兆円	時間節約・時間消費、モバイル機器普及率、稼げる店舗、
6	「観光大国&ネオ貿易大国」ニッポン	史上最大の訪日外国人1千万人の時代	海外との輸入・輸出、米中との関係、日本の伝統文化、自然を売り物にする

以上